

「学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会」の 成果と指導者育成に向けて

—「学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会」参加学生の実態に関する調査—

関口 遵 (コーチ学研究室)

半田 勝久 (教育学研究室)

野井 真吾 (学校保健学研究室)

背景

本学では平成29年度より「学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会」が開催されてきた。研修会には、学校・部活動において重大な事件や事故を経験した本人やその親族などの関係者が登壇し、当時の状況や心情、その後の取り組みなどを講演形式で提供されている。

平成30年度には、日本体育大学内にスポーツ危機管理研究所が開設され、それを機に同研究所が主催となり、「学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会」を開催することとなった。平成30年度の研修会は、平成30年の10月12日、11月7日、12月13日の三回、本学東京・世田谷キャンパス教育研究棟内記念講堂で実施された。各回のテーマは、第一回目がASUKAモデルと救える命を救うことの大切さ、第二回目が部活動中の事故と体罰の問題、そして、第三回目は学校における「指導死」と「いじめ」問題であった。(実施内容の詳細は、本誌「研修会報告①」を参照)。

これまでの研修会では、研修に参加している本学学生の実態については把握されてこなかった。そこで、本調査では、平成30年度に実施された「学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会」に参加した本学学生の実態を把握することを目的とした。

方法

(1) 調査対象者

調査対象者は、平成30年度「学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会」に参加した本学学生のみとした。調査対象に関する基礎情報は表1の通りである。質問紙の回答者数は、第一回目は91名(女性:30名、男性:61名)、第二回目が155名(女性:45名、男性:110名)、そして、第三回目が92名(女性:35名、男性:57名)であった(表1)。

表1 回答者の学部・学年別人数

		第一回目	第二回目	第三回目
総人数		91	155	92
男女数	女性	30	45	35
	男性	61	110	57
学部	体育	23	67	26
	児童スポーツ	1	2	—
	保健医療	6	1	—
	スポーツ文化	60	85	67
	スポーツマネジメント	1	—	—
学年	1年生	56	74	63
	2年生	11	22	6
	3年生	14	49	23
	4年生	10	10	1

(2) 調査方法、調査期間

本研究では、当該研修会の実施会場である本学東京・世田谷キャンパス記念講堂にて配布し、質問紙調査を実施した。調査実施日は、第一回目は平成30年10月12日、第二回目は同年11月7日、第三回目が同年12月13日であった。記入は研修会の演目終了後に行い、当日中に回収した。なお、本研究は日本体育大学の倫理審査委員会の承認を受けた。

(3) 質問紙の内容

● プロフィールに関する項目

調査対象者に対して、性別、年齢、職種、所属学部・学年、所属クラブ・サークル、希望する職種、教員免許状取得のための授業履修の有無についての回答を求めた。

設問1では、「卒業後に希望する職種について教えてください(第1位のみ)」の問いに対して、「教員」、「スポーツ指導者」、「消防・救急救命」、「警察」、「企業」、「進学」、「その他」の7つの選択肢から選ばせた。設問2は、「教

員免許状取得のための授業履修について教えてください」の問いに対して、「現在、履修している」、「今後履修するつもりだ」「履修しない」の3つの選択肢から選ばせた。次に、設問3では、学内外でのスポーツ事故や予防・対処に関する授業や活動について尋ね、授業、部活動・サークル、その他の3つに自由記述で回答させた。

● 研修会への参加に関する項目

その後、設問4から設問9では、「参加きっかけ」、「参加動機」、「過去参加した研修会」、「満足度」「必要度」についての回答を収集した。内容については以下の通りである。

設問の4と5では研修会参加のきっかけと動機について複数回答可として回答を求めた。設問4は、「今回の研修会に参加したきっかけはどのようなものですか?」の問いに対して、「授業で勧められて」「ゼミ活動」「部活動で勧められて」「日体教学舎」「案内・チラシを見て(学内掲示など)」「本学関係者に誘われて」「その他」の7つの選択肢から複数回答可として回答を求めた。次に、設問5では、「今回の研修会に参加した動機はどのようなものですか?」の問いに対して、「研修の必要性を感じたから」「研修が希望する職種に役立つだろうと感じたから」「友達や教員や知人に誘われたから」「昨年度も参加したから」「部活動などの研修に設定されたから」「その他」の6つの選択肢から回答させた。

設問6では、過去の研修会への参加について回答を求めた。なお、第二回目と第三回目の参加回数に関する設問では、その前の回への参加を尋ねる回答項目を増やした。設問7では過去の参加経験がある者に対して、「研修参加後にどのようなことを考え、どのような行動をしたのか、具体的にあればお教えてください」の問いに対して、自由記述で回答を求めた。研修会の参加者の全体像を把握するために、設問6までは設問8以降で未回答であった場合も分析の対象とした。

● 研修会の内容に関する項目

設問8では、研修会の満足度について「本研修会の内容にどのくらい満足いただけましたか?」の問いに対して、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満足」「不満足」の5件法で回答を求めた。設問の9では、「本研修会の内容は、あなたにとってどのくらい重要でしたか?」の問いに対して、「重要」「やや重要」「どちらともいえない」「やや重要ではない」「重要ではない」の設問8と同様に5件法で回答を求めた。

結果

(1) 第一回目研修会の本学学生参加者の実態

【回答者情報】

第二回目の回答者数は155名(男性:110名、女性:45名)であった。所属学部別では回答者人数が多い順に、スポーツ文化学部が85名、体育学部が67名、児童スポーツ学部が2名、保健医療学部が1名であった。学年別では1年生が74名、2年生が22名、3年生が49名、4年生が10名であった(表2)。学友会クラブ・サークルの所属については、28団体125名の参加があり、その内訳は、剣道部が45名、バドミントン部が12名、トランポリン部が10名、10名以下のクラブ・サークルについては表3を参照。バドミントン部、トランポリン部など新たに13団体からの参加があった。また、本学学友会クラブ・サークルに所属していないものは30名であった。

表2 回答者の学部・学年別人数(カッコ内は女性)

学 部	学年	第一回目	第二回目	第三回目
体育	1	—	5 (1)	—
	2	1 (1)	4 (4)	2 (2)
	3	12 (5)	49 (20)	22 (9)
	4	10 (4)	9 (2)	1 (1)
児童スポーツ教育	1	1 (0)	2 (0)	—
	2	4 (2)	—	—
保健医療	3	3 (0)	—	—
	4	—	1 (1)	—
スポーツ文化	1	53 (18)	67 (15)	63 (20)
	2	6 (0)	18 (2)	4 (3)
スポーツマネジメント	1	1 (0)	—	—
合 計		91 (30)	155 (45)	92 (35)

【設問1】

「卒業後に希望する職種について教えてください。(第1位のみ)」

卒業後に希望する職種については、「教員」が53名(57.0%)、「スポーツ指導者」が9名(9.7%)、「消防・救急救命」が4名(4.3%)、「警察」が11名(11.8%)、「企業」が2名(2.2%)、「進学」が12名(12.9%)となった。

表3 回答者の所属学友会クラブ・サークル

クラブ・サークル名	第一回目	第二回目	第三回目
剣道部	30	45	27
空手道部	9	9	8
合気道部	5	6	—
柔道部	5	5	4
サッカー部	2	4	4
陸上競技部	2	2	2
セバタクロー部	2	—	—
ラクロス部	1	2	2
バレーボール部	1	1	3
研修部	1	—	—
弓道部	1	—	—
ライフセービング部	1	—	—
新体操部	1	—	—
山岳部	1	1	—
バドミントン部	—	12	—
トランポリン競技部	—	10	—
準硬式野球部	—	3	2
ソフトボール部	—	2	—
バスケットボール部	—	2	—
硬式野球部	—	2	—
軟式野球部	—	1	—
少林寺拳法部	—	1	—
体操部	—	1	—
アメリカンフットボール部	—	1	—
タッチラグビーサークル	3	2	2
フットサルサークル	3	6	4
救急医療サークル	3	—	—
スカッシュサークル	1	1	1
基礎スキー研究会	1	1	1
ヒップホップ同好会	1	1	1
アルティメットサークル	1	1	—
ソングリーディングサークル	—	1	—
トレーナー研究会	—	1	1
バスケットボールサークル	—	1	—

【設問2】

「教員免許状取得のための授業履修について教えてください。」

教職免許状取得のための授業の履修状況については、「現在、履修している」と回答した者は、第一回目が77名(84.6%)、「今後、履修するつもりだ」と回答した者は2名、「履修しない」と答えた者は12名であった。

【設問3】

「入学してからこれまで受講した授業や部活動・サークル等の中で、スポーツの事故やその予防・対処関連するような授業にはどのようなものがありましたか？(複数回答可)」

スポーツ文化学部所属の学生からは、「スポーツの安全指導」、「救急処置概論」、「トレーニング学」、「学校安全」、「スポーツ医学」、体育学部学生からは、「学校安全」、「学校保健」、「基礎看護」、「臨床看護」、「衛生学」、「公衆衛生学II」、「海浜実習」、「病院実習」が挙げられた。保健医療学部所属の学生からは、「外傷学」、「整形外科学」、「内科」、「外科」、「救急処置医学」が挙げられた(表4)。部活動では、剣道部、空手道部、ラクロス部、陸上競技部トレーナーブロック。それ以外の活動では、「AED上級講習会」、「普通自動車免許教習」、「ボランティア活動」、「消防団での上級救命講習・災害訓練」という回答があった。

【設問4】

「今回の研修会に参加したきっかけはどのようなものですか？(複数回答可)」

当該研修への参加のきっかけについて、「授業で勧められて」、「ゼミ活動」、「部活動で勧められて」、「日体教学舎」、「案内・チラシを見て(学内掲示など)」、「本学関係者に誘われて」、「その他」の7つの選択肢から複数回答可として回答させた。回答数が多い順に、「授業で勧められて」が52名、「部活動で勧められて」が33名、「本学関係者に誘われて」と「案内・チラシを見て(学内掲示など)」が5名、「日体教学舎」が2名、「ゼミ活動」が1名であった。なお、「部活動などの研修に設定されたから」と回答した学生が所属クラブ・サークルは、剣道部と合気道部であった。

表4 スポーツ危機管理に関する授業科目(設問3)

学部	学年	授業科目
スポーツ文化学部	1	スポーツの安全指導、救急処置概論、機能解剖学、教師論
	2	トレーニング学、学校安全、スポーツ医学
体育学部	1	救急処置概論、トレーニング学、学校安全、スポーツ医学、海浜実習、ストレッチ実習
	2	アダプテッドスポーツ、障害者スポーツ現場実習
	3	コーチング学、健康管理学、教育原理、教育カウンセリング、野外活動論、内科、外科、免疫学、テーピング、生徒指導論、人権教育、体育科教育実践法
	4	学校保健、基礎看護、臨床看護、衛生学、公衆衛生学Ⅱ、保健科教育法、柔道
保健医療学部	2	海外研修プログラム
	3	外傷学、整形外科、内科、外科、生理学、救急処置医学
児童スポーツ学部	1	心肺蘇生法

【設問5】

「今回の研修会に参加した動機はどのようなものですか？(複数回答可)」

参加動機については、「研修の必要性を感じたから」、「研修が希望する職種に役立つだろうと感じたから」、「友達や教員や知人に誘われたから」、「昨年度も参加したから」、「部活動などの研修に設定されたから」、「その他」の6つの選択肢から複数回答可とし回答させた。その結果、「研修の必要性を感じたから」が最も多く43名、次に「研修が希望する職種に役立つだろうと感じたから」が38名、「友達や教員や知人に誘われたから」が25名、「部活動などの研修に設定されたから」が21名、「昨年度も参加したから」10名であった。その他の回答に関しては1名で「明日香さんのお母様ご本人が参加されると聞いて」であった。

【設問6】

「これまでに開催された「学校・部活動に於ける重大事件・事故から学ぶ研修会」に参加したことがありますか？(複数回答可)」

設問6では、過去の参加した研修会について回答させた。その結果、昨年度までの会に参加した者が26名、

初参加が65名であった。第一回目の参加者の7割以上が初参加であった。

【設問7】

「設問6で【3.のいいえ以外】に○をつけた方のみお答えください。研修参加後にどのようなことを考え、どのような行動をしたのか、具体的にあればお教えてください。」

設問7では、前回の研修会を参加した以降に、スポーツ危機管理に関して考えたことや行動したことについて尋ねた。その結果、昨年度の研修会に参加した26名中14名からの回答があった。具体的には以下のような回答があった。

- ・研修で聞いた話し、見た写真の事を考えて、良い指導者になるためには、どのような指導法をすれば良いのか考えました。
- ・自分の近くで人が倒れたら自分がやるという気持ちで対応したいと考えた。
- ・自分に基本知識と実践知識がないと現場では知識だけでは意味がないと考え、部活動では、3年生なので後輩の体調を気づかうようにしたり、無理をさせないようにしたりするように心がけている。
- ・救急を要する場面になってしまった事がないので、実際に何ができたということは無いのですが、もしその場になったら率先して動こうという心掛けは常に持っています。
- ・私自身が教員になった時、または、部活動中に、もしこのような体験をした時に、どのような対処をすればいいのか、どのような行動をすべきなのかを学ぶため。
- ・事件から得たものを受講しなかった学生などに話し、知識の共有を行った。
- ・地元へ帰省した際に後輩が熱中症になったが、先生とともに対応することができた。
- ・自分のまわりでは、起きていないこと、想像もつかないことについて知っておくことの重要性を感じた。研修参加後の行動として、いじめ、体罰について調べたり、新聞を切り抜き、自分なりに考えを深めるものにした。
- ・熱中症など、自分たちの身近で1番考えられることを考え、部活動内で対策等を徹底して行ったり、周りにも声かけを行った。
- ・大学で学んだ授業や研修会の内容や資料をしっかりと保存し、時間がある時にしっかりと見直し、準備をしっかりしておきたい。
- ・事前に知っていることで、助けられる命がたくさん

- あることを知り、次回の研修会にも参加した。
- ・対処の仕方、生徒への接し方などを学びました。
 - ・人の命を預かる仕事だということを理解した。
 - ・これまで体罰での死亡事故や熱中症での死亡事故など事例をもとにお話を頂いて、もし教員になったら、もし自分の近くでこのような事故が起きたらどうしなくはいけないのかをよく考えるようになりました。

【設問8】

「本研修会の内容にどのくらい満足いただけましたか？」

満足度に関する調査した結果、未回答だった7名を除く84名の内、「満足」が78名(92.9%)、「やや満足」が4名(4.8%)「普通」が2名(2.4%)「やや不満足」と「不満足」に回答したものはいなかった。なお、9名が未回答であった。

【設問9】

「本研修会の内容は、あなたにとってどのくらい重要でしたか？」

重要度に関して調査した結果、第一回目は「重要」が79名(94.0%)、「やや重要」が5名(6.0%)であった。残りの選択肢には回答はなかった。設問8と同様の回答者である7名が未回答であった。

(2) 第二回研修会の本学学生参加者の実態

【回答者情報】

第二回目の回答者数は155名(男性：110名、女性：45名)であった。所属学部別では回答者人数が多い順に、スポーツ文化学部が85名、体育学部が67名、児童スポーツ学部が2名、保健医療学部が1名であった。学年別では1年生が74名、2年生が22名、3年生が49名、4年生が10名であった(表2)。学友会クラブ・サークルの所属については、28団体125名の参加があり、その内訳は、剣道部が45名、バドミントン部が12名、トランポリン部が10名、10名以下のクラブ・サークルについては表3を参照。バドミントン部、トランポリン部など新たに13団体からの参加があった。また、本学学友会クラブ・サークルに所属していないものは30名であった。

【設問1】

「卒業後に希望する職種について教えて下さい。(第1位のみ)」

卒業後に希望する職種第二回目は、「教員」が80名(51.3%)、「スポーツ指導者」が9名(5.8%)、「消防・救急救命」が2名(1.3%)、「警察」が14名(9.0%)、「企

業」が27名(17.3%)、「進学」が2名(1.3%)、「その他」が18名(10.3%)。

【設問2】

「教員免許状取得のための授業履修について教えてください。」

教職免許状取得のための授業について、「現在、履修している」と回答した者は、138名(89.0%)、「今後、履修するつもりだ」と回答した者は1名(0.6%)、「履修しない」と答えた者は16名(10.3%)であった。

【設問3】

「入学してからこれまで受講した授業や部活動・サークル等の中で、スポーツの事故やその予防・対処関連するような授業にはどのようなものがありましたか？(複数回答可)」

スポーツ文化学部所属の学生からは、「スポーツの安全指導」、「救急処置概論」、「スポーツ医学」、体育学部学生からは、「ストレッチ実習」、「機能解剖学」、「アダプテッドスポーツ」、「学校安全」、「学校保健」、「コーチング学」、「健康管理学」、「教育原理」、「教育カウンセリング」、「野外活動論」、「内科・外科」、「免疫学」、「保健科教育法」、実技科目では「柔道」、実習科目では「海浜実習」、「障害者スポーツ現場実習」が挙げられた。保健医療学部所属の学生からは、「アスレティックリハビリテーション」が挙げられた。部活動では、剣道部、柔道部、合気道部、陸上競技部トレーナーブロック、トランポリン競技部、アメリカンフットボール部、バドミントン部、アルティメットサークル、タッチラグビーサークル、トレーナー研究会、バスケットボールサークル、フットサル同好会、が挙げられた。それ以外の活動では、「運転免許取得講習」、「ボランティア活動」が挙げられた。

【設問4】

「今回の研修会に参加したきっかけはどのようなものですか？(複数回答可)」

第二回目の研修会に参加したきっかけは、「部活動で勧められて」75名が最も多く、それに次いで、「授業で勧められて」が66名、「ゼミ活動」が7名、「本学関係者に誘われて」が10名、案内・チラシを見て(学内掲示など)が6名、その他には2名で両者ともに「友人に誘われた」と回答した。複数回答者は11名であった(表4)。

【設問5】

「今回の研修会に参加した動機はどのようなものですか？（複数回答可）」

最も多かったのは、第一回目同様に「研修の必要性を感じたから」が57名で、次いで、「部活動などの研修に設定されたから」が52名、「研修が希望する職種に役立つだろうと感じたから」と「友達や教員や知人に誘われたから」が同数で36名、「昨年度も参加したから」が13名であった。その他の回答に関しては2名で、「ゼミ活動の一環として」との回答があった。なお、「部活動などの研修に設定されたから」と回答した学生が所属クラブ・サークルは、剣道部、合気道部、トランポリン競技部、バドミントン部であった。

【設問6】

「これまでに開催された「学校・部活動に於ける重大事件・事故から学ぶ研修会」に参加したことがありますか？（複数回答可）」

第二回目は、「昨年度までの会に参加した」が33名「今年度開催された第一回目に参加した」53名、「いいえ」と回答した初参加の者が72名であった。参加回数を元にした割合は、昨年度に引き続き第一回目にも参加した者は1.9%（3名）、昨年度参加して今年度内は初参加であった者は20.0%（31名）、今年度二回目の参加は32.3%（50名）、全くの初参加は45.8%（71名）であった。

【設問7】

「設問6で【3.のいいえ以外】に○をつけた方のみお答えください。研修参加後にどのようなことを考え、どのような行動をしたのか、具体的にあればお教えてください。」

設問7では、昨年度の研修会あるいは今年度第一回目の研修会に参加した84名中27名からの回答があった。昨年度までに参加した学生からは、以下のような回答があった。

- 夏場は水分補給など体調や調子のことを今まで以上に気にかけた。
- スポーツ事故、体罰、いじめ等は他人事では済まされない。もし身近で起きた時、自分はどのような対応をしていけばいいか、を考えました。それは、スポーツ事故が起きてしまった時は、より一層事故防止体策を考え、部員全体に周知していくことを自分がリードしていかなければならないと感じました。
- この様な事件、事故を起こさないようにしていく。
- 人に対しての接し方や関わりを考えて、自分の主張を

相手に押しつせず、しっかりと周りの声などを受け入れ大きな人間として成長するように心がけました。

- 熱中症にならないよう定期的に水分をとるようにしています。
 - 将来、私自身が指導者という立場になった時、勝ち負けの前に、安全を考慮した活動を第一に、取り組んでいこうと思いました。
 - 自分が教員となった時やこれからの生活で学んだ事故をおこさないように心がけようとする。
 - 実際に事故にあった人の体験や話を聞く事で指導者になったときに絶対に起こしてはならないと考えました。部活中に水分補給を心がけたりしています。
 - 自分の教える立場に立ったときに、相手の気持ちを考えながら自分の感情にまかせた指導はしないようにした。
- さらに、第一回目に参加した学生からは以下のような回答があった。

- 日頃から近くにこのようなことが起きたら人ごとではなく、自分のことのように治療をしたいという考えになった。
- 先日、駅で倒れている人を発見し、知り合いと共に救護に少し協力できた。研修以前の私であれば手を差しのべる勇気はなかった。
- A E Dの使い方を調べた。
- A E Dについて更に調べ、もし実際にA E Dを使うことがあれば、すぐに使えるようにしたいと考えた。
- 小さなことからですが、今、近くにA E Dがあるか、周囲は十分に安全かを確認するようにしています。
- 学校や部活動ではどんなに安全に指導を行なっていると思っていても、いつ何が起きるか分からないというリスクを常に考えていかなければならないと考えようになりました。そしてもし起こってしまったら、すぐに対応できるように準備や対策をおこなわないようにしようと思いました。
- A E Dの位置の確認
- A E Dの位置を把握するようになりました。
- いつ重大事故が起きても大丈夫のようにA E Dの位置を確認して学校生活を過ごした。
- 前回の研修で、心臓マッサージのすばやい措置が大切だと聞きました。そのような場面に出くわした場合にすぐ行動ができるように考えています。
- 部屋で時間がある時は、インターネットで調べてみる機会が増えました。
- 学校での事故についてインターネットで調べた。

- 私の周りで人が倒れてしまった場合は、適切な行動をできるように前回の研修会で学べたので、今後、そのようなあった時は、目をそらさず、その場に立ち向かっていこうと思った。
- 事故や事件を起こさないように、気をつけて活動している。
- スポーツ現場での事件や事故を調べるようになった。
- 後輩に対する考え。
- 体罰というものは、生徒自体の心を傷つけ、好きだったスポーツが怖くなり嫌になってしまうので体罰をしてしまう指導者は、能力は低いので自分は指導力のある教員になろうと思います。
- 電車で倒れた方(ただ転んだだけでしたが)を助けることが出来ました。

【設問8】

「本研修会の内容にどのくらい満足いただけましたか？」

満足度に関しては、22名の未回答者を除く133名で、「満足」109名(82.0%)、「やや満足」が17名(12.8%)「普通」が7名(5.3%)であった。なお、23名が未回答であった。

【設問9】

「本研修会の内容は、あなたにとってどのくらい重要でしたか？」

第二回目は、「重要」が118名(88.7%)、「やや重要」が12名(9.0%)、「どちらともいえない」3名(2.3%)であった。「やや重要ではない」と「重要ではない」に回答したものはなかった。なお、設問8と同様の22名が未回答であった。

(3) 第三回研修会の本学学生参加者の実態

【回答者情報】

第三回目の回答者数は92名(男性：35名、女子：57名)であった。その内訳は学年別でみると、1年生が63名、2年生が6名、3年生が22名、4年生が1名であった。所属学部別では、体育学部とスポーツ文化学部のみで、それぞれ26名と67名であった(表2)。学友会クラブ・サークルの所属については、14団体62名の参加があり、その内訳は剣道部が27名、空手道部が8名、柔道部、サッカー部、フットサルサークルが4名、4名以下のクラブ・サークルについては表3を参照。過去の回から新たに参加があった団体はなかった。学友会クラブ・サークルに所属していないものは30名であった。

【設問1】

「卒業後に希望する職種について教えて下さい。(第1位のみ)」

第三回目は、「教員」が56名(60.9%)、「スポーツ指導者」が6名(6.5%)、「消防・救急救命」が1名(1.1%)、「警察」が6名(7.6%)、「企業」が27名(17.3%)、「進学」が2名(1.3%)、「その他」が18名(10.3%)。

【設問2】

「教員免許状取得のための授業履修について教えてください。」

教職免許状取得のための授業について「現在、履修している」と回答した者は、85名(91.4%)、「今後、履修するつもりだ」2名、そして、「履修しない」6名であった。

【設問3】

「入学してからこれまで受講した授業や部活動・サークル等の中で、スポーツの事故やその予防・対処関連するような授業にはどのようなものがありましたか？(複数回答可)」

スポーツ文化学部所属の学生からは、「スポーツの安全指導」、「学校安全」、「スポーツ医学」、体育学部学生からは、「学校安全」、「学校保健」、「テーピング」、「生徒指導論」、「人権教育」、「体育科教育実践法」、「海浜実習」、が挙げられた。保健医療学部所属の学生からは、「外傷学」、「整形外科学」、「内科」、「外科」、「救急処置医学」が挙げられた(表4)。部活動では、バレーボール部、空手道部、剣道部、陸上競技部トレーナーブロック、タッチラグビーサークル、トレーナー研究会、フットサル同好会において関連した活動があったことがわかった。それ以外の活動では、「上級救命講習」「運転免許状取得講習」、「ボランティア活動」が挙げられた。

【設問4】

「今回の研修会に参加したきっかけはどのようなものですか？(複数回答可)」

第三回目の研修会に参加は、「授業で勧められて」が58名、「部活動で勧められて」が29名であり、それ以外の回答は、「本学関係者に誘われて」2名、「案内・チラシを見て(学内掲示など)」1名、「日体教学舎」が1名で、「その他」が1名。複数回答は3名であった。その他についての回答は、「友人に誘われて」であった。「ゼミ活動」として参加した学生はいなかった。

【設問5】

「今回の研修会に参加した動機はどのようなものですか？（複数回答可）」

第三回目では、「研修の必要性を感じたから」が54名、「研修が希望する職種に役立つだろうと感じたから」が22名、「部活動などの研修に設定されたから」21名、「友達や教員や知人に誘われたから」が19名、「昨年度も参加したから」1名であった。なお、「部活動などの研修に設定されたから」と回答した学生が所属クラブ・サークルは、剣道部、合気道部であった。

【設問6】

「これまでに開催された「学校・部活動に於ける重大事件・事故から学ぶ研修会」に参加したことがありますか？（複数回答可）」

「昨年度までの会に参加した」が14名、「今年度開催された第一回に参加した」が39名、「今年度開催された第二回に参加した」52名であった。「いいえ」と回答した初参加が18名（19.4%）で、今年度2回参加した者は38名（40.9%）、今年度全3回すべて参加した者は26名（28.0%）だった。昨年度から継続で今年度全て参加した者は1名であった。

【設問7】

「設問6で【3.のいいえ以外】に○をつけた方のみお答えください。研修参加後にどのようなことを考え、どのような行動をしたのか、具体的にあればお教えてください。」

設問7では、昨年度の研修会あるいは今年度第一回目の研修会に参加した75名中19名からの回答があった。具体的な回答としては、以下のような回答があった。

- 水分補給や休憩を体調不良の場合にはとるようにした。
- 自分が将来、教員になった時にどのような指導をしていくべきか、どのような教員になるべきかを考えました。
- 今と昔は違うということ。自分がしてもらってきた指導は、今どう思われるのか子どもにとってどうなのか。
- 命の大切さを感じ、指導者等になったとき、もっと考えて動いていかないといけないと感じた。
- 私が、将来教員になった際、間違った指導をしなかったため、本当に起きてしまった、ひどい事件などを知ることで何がいけなかったのか、どのように指導すべきなのかを客観的にとらえ考えることで、自分も同じ過ちをしないようにしたいと考えている。

また、今年度参加経験のある学生からは以下のような回答があった。

- まだ行動を起こせてはいないが、緊急時、自分が動くという決心ができた。
- 熱中症に対しての知識と、AEDについての知識、心ばいせいについて学び、自分の指導法について見つめ直し、どのように改ぜんしていきました。
- 適切な対処の仕方など生きていくうえで大事であると思います。
- 被害者の、本当の気持ちを知ることができた。
- アルコール中毒者に対して応急処置を行った。
- 研修後、予防できるよう考えました。
- 子ども達への指導の仕方をより詳しく学ぶようになりました。
- 深く考え、自分が教師になったときに活かしていきたいと思います。
- 自分の中での考え方に違いが生じた。
- AEDの位置を以前より把握するようになった。
- 体罰のお話を聞いて、自分の部活動でそのようなことがないよう意識してみている。
- 私は将来指導員になることを考えています。教え子がよい結果を残し共に喜びをわかち合えるように、今私は日本体育大学生の一員として様々な授業で学んでいるのだと思います。1つ1つの授業に対して“キツイ”や“めんどい”と正直に思ってしまうことがあったがこのままだといいい指導員になれないと思いい、研修会をきっかけ前向きな姿勢・意識で生活するように気をつけています。
- 動画サイトなどで、AEDの使い方の動画などを見た。
- この研修で、様々な体験談を聞いて教員になるうえで指導において活かしていかなければならないと思った。

【設問8】

「本研修会の内容にどのくらい満足いただけましたか？」

第三回目の満足度に対する回答は、未回答であった5名を除く86名で、「満足」68名（79.1%）、「やや満足」が12名（14.0%）「普通」が5名（5.8%）、「やや不満足」が1名（1.2%）であり、「不満足」に回答したものはいなかった。なお、5名が未回答であった。

【設問9】

「本研修会の内容は、あなたにとってどのくらい重要でしたか？」

重要度に対する回答は、「重要」が71名（82.6%）、「やや重要」が12名（14.0%）、「どちらともいえない」

3名(3.5%)であった。第二回目同様に「やや重要ではない」と「重要ではない」に回答した者はいなかった。なお、設問8と同様の8名が未回答であった。

まとめ

平成30年度の研修会には、各回90名を超える学生の参加があった。参加学生の所属学部としては、スポーツ文化学部と体育学部が合わせると毎回90%を超える参加者数となった。参加学生の所属学友会クラブ・サークルについては、剣道部が圧倒的に多く、毎回約3割を占めていた。回答者の学年については、全ての回で1年生(平均64.3±9.1名)、次いで、3年生(平均28.7±18.2名)、2年生(平均13±8.2名)、4年生(平均7±5.2名)順となった。

回答した学生の希望職種は、全ての回において教員が最も多かった。また、回答者の9割以上が教員免許状取得のための授業を履修していると回答した。教員になること志望の学生の参加がほとんどであったことがわかった。

設問3では授業内外でのスポーツ危機管理に関連する活動についての回答を求めた。その結果、本学の授業では合計39科目が挙げられた。また、学友会クラブ・サークルについては、剣道部などの14団体では何かの活動があることがわかった。本研修で扱ったようなスポーツ危機管理に関わる学びが授業内外でも扱われていることがわかった。

設問4の問いである研修参加のきっかけについては、毎回「授業で勧められて」が回答者人数の第一回目で57.1%、第二回目が42.6%、第三回目で64.1%、「部活動で勧められて」が第一回目で38.3%、第二回目で48.4%、第三回目で32.6%と他の項目よりも高い割合を示した。つまり、授業や部活動で紹介あるいは研修の位置付けで参加を促されたのがきっかけで参加した学生が多かったことがわかる。そして、参加の動機については、「研修の必要性を感じたから」が全ての回で最も多かった。参加動機の2番目と3番目には、「研修が希望する職種に役立つだろうと感じたから」と「部活動などの研修に設定されたから」のいずれかであった。この結果から、研修会の多くの回答者が高い参加意欲があった可能性があることと部活動などの研修としても利用されていることがわかった。

次に、設問6では、過去の参加について尋ねた。その結果、今年度研修会に初参加した学生は155名で

あった。今年度三回全てに参加した学生は26名であり、昨年度も参加した学生は61名であった。昨年度まで、そして、今年度全ての回に参加したのは1名で、体育学部剣道部3年男性であった。

続いて、設問7では、過去に参加した経験のある学生に対して研修会参加後に考えたことと行動したことについて自由記述で回答させた。その結果をまとめると、学習活動としては、情報共有・収集(「受講しなかった学生などに話し、知識の共有を行った」や「いじめ、体罰について調べたり、新聞を切り抜き、自分なりに考えを深め(た)」など)に関する回答があった。また、AEDに関しては、AEDの使い方を調べ、AEDの位置確認を日常化させているという回答も見られた。さらに、スポーツで起きる危機管理に関する具体的な行動としては、心構え、周囲への注意喚起、応用行動、救急処置に関する記述がみられた。心構えには、「もしその場になったら率先して動こうという心掛けは常に持っています」や「自分の近くで人が倒れたら自分がやるという気持ちで対応したいと考えた」など緊急時対応への心理的な準備に関する回答があった。周囲への注意喚起としては、「部活動内で対策などを徹底して行ったり、周りにも声かけを行った」や「熱中症にならないよう定期的に水分を摂るようにしています」などであった。研修内容を応用した行動に関する回答では、「自分の教える立場に立ったときに、相手の気持ちを考えながら自分の感情にまかせた指導はしないようにした」や「自分に基本知識と実践知識がないと現場では知識だけでは意味がないと考え、部活動では、3年生なので後輩の体調を気づかうようにしたり、無理をさせないようにしたりするように心がけている」などがあった。さらに、「アルコール中毒者に対して応急処置を行った」や「地元へ帰省した際に後輩が熱中症になったが、先生とともに対応することができた」など、実際に救急処置を実施した者もいた。また、「先日、駅で倒れている人を発見し、知り合いと共に救護に少し協力できた。研修以前の私であれば手を差しのべる勇氣はなかった」という発言から、研修会で学んだことが救急時対応に効果的につながった可能性もみられた。一方、具体的な行動ではないが「良い指導者になるためには、どのような指導法をすれば良いのか考えました」など、保健体育教員などの指導者になるために必要なことを考える機会を持った者もいた。

最後に、設問8と9では、それぞれ満足度と重要度について回答させた。その結果から、満足度に関し

ては、全ての回で「満足」と答えた学生が最も多く、第一回目が92.9%、第二回目が82.0%、第三回目は79.1%であった。そして、重要度についても、「重要」と答えた学生が非常に多く、第一回目が94.0%、第二回目が88.7%、第三回目が82.6%と、どの回も8割以上の学生が研修で扱った内容についての重要性が強く感じていることがわかった。